



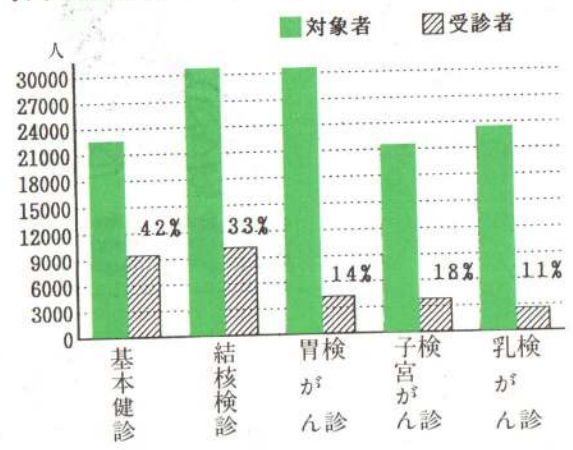
市民の健康を守る 保健センター

低い受診率

リポーター 柳 沢 トキ子 (釈迦内)

私たちが生活していく中で、何が一番大切かというと、やはり「健康」ではないでしょうか。身体の具合が悪いと、思うように仕事もできません。健やかに生きて、健やかに老いる、それがみんなの願いだと思います。そこで、保健センターを訪ね、市民の健康を守るためのどのような活動をしているのか、伺ってみました。

各種検(健)診対象者と受診者の比較



三月六日の午後一時三十分保健センターへおじゃましました。ちょうど乳・幼児健診が行われていました。その忙しい中、鈴木所長補佐と奈良係長が取材に応じてくれました。

「保健センターの主な仕事は、検診・健診活動、保健指導活動を通して、市民の健康保持・増進を図ることであります。つまり、各種がん検診や基本健診等を実施し、病気の早期発見・早期治療を目指すこと、乳・幼児健診・予防接種等を通して、乳幼児の健康管理、保育指導を行うこと、母親教室やリハビリ教室、健康相談室などを開催し、自らの健康状態等を認識してもらおうこと」と鈴木所長補佐。

検診と健診の一覧表を見せていただきました。実施しているのは、検診が結核、胃がん、乳がん、子宮がん、総合(人間ドック)の五つ。健診は、基本健診(大館地区では一般健診と精密健診)と乳・幼児健診です。これらの受診率を見て驚きました。乳・幼児健診は、ほぼ一〇〇%なのですが、その他は五〇%にも満たない状況です。特にがん検診にいたっては、三つとも一〇%台です(上のグラフを、参照ください)。

なぜこんなに、成人の受診率が低いのでしょうか。奈良係長は、「対象者が、検診や健診のことを知らないためではないか」と思っています。毎年、年度初めに一年間の実施計画を毎戸に配布していますし、実施時期になると対象者へハガキを出して受診を呼びかけています。一人ひとりに電話をかけたこともありましたが、それでも成人については受診率が上がらないんです」と話していました。

私なりに、受診率の低さにつ

いて考えてみました。結論から言うと、「市民の健康に対する意識が低い」のではないかと思えます。

ふだん健康で過ごしていれば、検診のハガキが来ても「いいわ、別に悪いところなんてないから」と見過ごしてしまいがちです。近くに病院がある人は、「何かあったら病院へ行くから」と思っているのかもしれない。また、指定された日が忙しいからとか、めんどろだからと受診しないのかもしれない。でも、悪いところ、痛いところがあつてからではもう遅いのです。

鈴木所長補佐は、次のように言っていました。「検診・健診の目的は、病気の早期発見・早期治療にありますから、毎年受けなくては意味がありません。今年大丈夫でも、来年は病気が発見されるかも知れません。ただし発見されても、毎年受けている人にとっては「早期」ということになりやすから、それだけ治療にかかる時間も少なくて済みます。だからこそ、ぜひ毎年受診していただきたいのです」。

悪いところがあるのでは、と思つて病院へ行って受ける検査と、安心のために受ける検診とは、精神的にずいぶん違います。また経済的に見ても、保健センターが実施している検診・健診は、市でお金を一部負担し

てくれていますので安く上がりまます。皆さん、年々歳々健やかに暮らすためには、受診は欠かせないと思いませんか。

これからも頑張つて

検診・健診のことだけのレポートになつてしまいました。もちろん保健センターでは、このほかにも数多くの仕事を行っています。各地区公民館などへ保健婦が掛けて開いている「定例健康相談」は、ご存じの人も多いことでしょう。寝たきり老人への訪問指導、各種健康教室・研修会開催等々、保健センターの皆さんは、私たち市民の健康を考えて頑張っています。

保健センターの皆さん、ご自身の健康にも充分気をつけて、これからも私たちの「健康」をよろしく願います。



左から鈴木所長補佐、奈良係長、柳沢リポーター

◇広報市民リポーターだよりは、毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載しています。